

「電子白板」端から操作

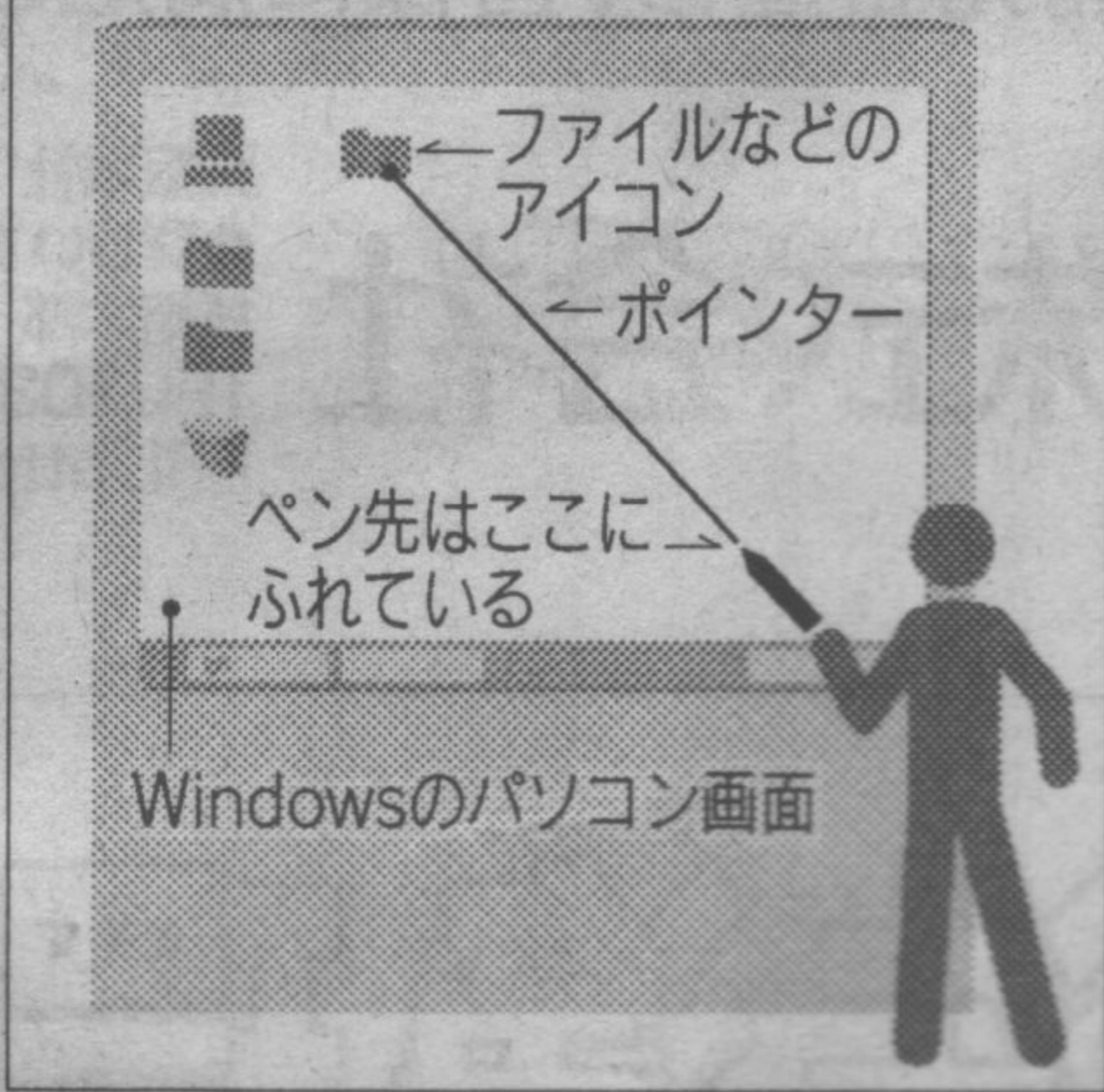
農工大が新技術 画面見やすく

会議や講義などで使う大画面表示装置「電子白板」

を使いやすくする技術を開発した。京農工大学の研究グループ

が発表した。授業やプレゼンテーションに役立つと期待されている。

新しい電子白板の仕組み



画面の端を電子ペンで触るだけで様々な操作ができ、発表者の姿が邪魔にならず画面が見えにくくなる状況を回避でき

る。新技術は中川正樹教授と、大学院生の坂東宏和氏が開発した。使い手が電子ペンで白板画面の端に触れると、そこから「ポインター」と呼ばれる指示棒が画面上に現れる。このポインターの先がパソコン画面に通常現れるマウスのカーソルに相当す

るものとなり、ファイルを開いたり動かしたりする操作ができる。ポインターが伸びる方向や距離は電子ペンの動きで自由に調整できる。

電子白板装置は大型のディスプレイを使うものや大型スクリーンにプロジェクター（投影装置）で画面を表示するタイプがあるが、いずれの場合も使い手が画

面に電子ペンで触れようとすると会議参加者の目から画面を遮ることになる。新技術は使い手が画面わきに立って画面の端から操作ができるため使いやすい。